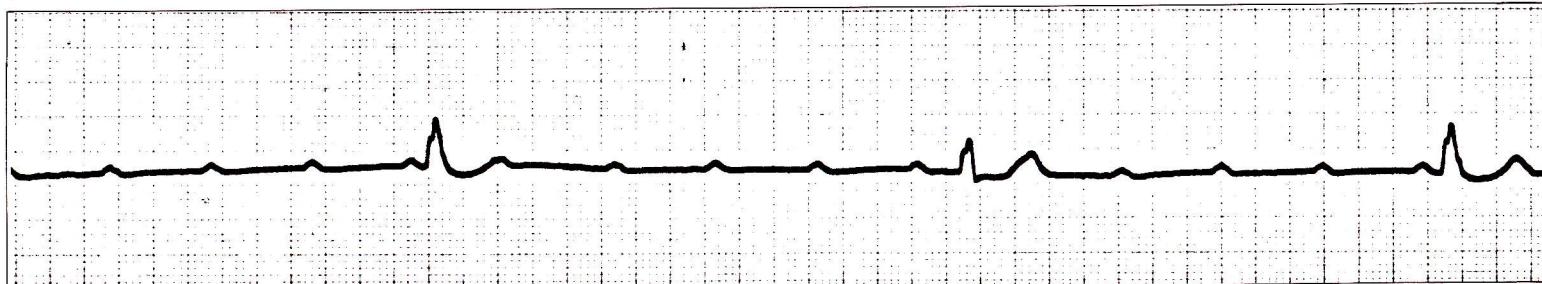
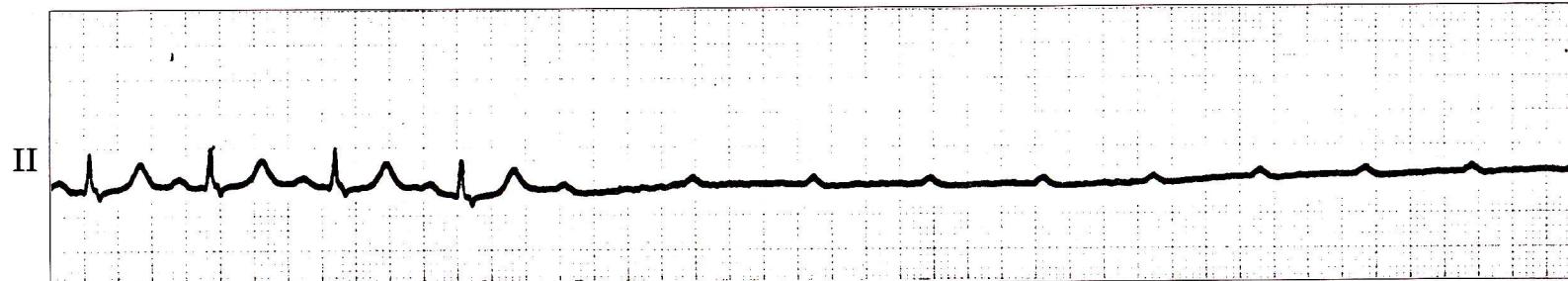


症例 57

●69歳 男

昭和52年2月頃より、めまい、ふらつきの発作が出現。以後、頻度が徐々に増加してきたため、4月某病院に入院した。



(連続記録)

- 1) このリズムは何か。
- 2) 治療はどうすればよい。

心電図診断

完全房室ブロック+心室自動

上段前半は洞調律。上段中央より、P波のみとなり、QRS波が脱落（完全房室ブロック）。

下段の3拍は心室性の補充調律と考えられる。

解 説

一過性の房室伝導障害に対しては副交感神経ブロッカー（アトロピン）、 β 受容体刺激剤（イソプロテレノール）の内服、注射などが用いられるが、このような薬剤を投与しても、めまい、失神発作をくりかえす例では積極的に人工ペースメーカーの植込みを図るべきである。